岩手県野田村保育所。ゆるやかな坂を上ると、子どもたちの声が聞こえてきます。

写真は、岩手県野田村保育所の子どもたち。
震災の日、津波から逃れるために、先生たちに手を引かれながら、
2キロ先の高台まで坂道を歩き続けました。
毎月行われていた避難訓練の甲斐あって、
園児、職員ともに全員が無事でしたが、施設は津波によって流失。
子どもたちのためにも、子どもを預け、地域の復興に向けて働く親のためにも、
保育所の再建は早急に取り組むべき課題でした。
昨年10月末に「ヤマト福祉財団」の助成金により、ようやく完成した新しい保育所は、
津波の心配のない高台に建ち、広い敷地にのびのびと子どもを
育てられる場所だと、先生たちは言います。
保育所の要望に沿って野田村が動き、村一丸となって取り戻した日常がここにあります。

２０１１年３月11日から、もうすぐ1年と10ヶ月。それぞれの時間が流れました。
私たちヤマトグループは、東日本大震災の翌月から1年間、
被災地の生活基盤と水産業・農業の復興再生に向けて
「宅急便1個につき10円を寄付する」活動を行いました。
これまで宅急便を育ててくれた東北への恩返しの気持ちを込めて。
全国のみなさんの力で集まった寄付金は、１４２億３６０８万１３６０円。
財団に直接寄付していただいた方々の分を合わせて、
合計１４２億８４４８万７５１円になりました。
宅急便をご利用いただいた一人ひとりのお客さまと、この活動を支えてくださったすべての方に、
心から感謝いたします。ありがとうございます。
寄付金は、公益財団法人「ヤマト福祉財団」を通じて被災地の支援に活かされ、
少しずつ、しかし確実に、様々な事業が形になり始めています。
助成先の県別内訳は、岩手県が11件、宮城県が8件、福島県が12件。
野田村保育所の再建事業もそのひとつです。

この活動を私たちに決心させたのは、被災地の社員一人ひとりの行動でした。
震災直後から、彼等は自発的に地域の人々のために動きました。
同じ痛みを体験し、街や人々をよく知っている自分たちだからこそできるやり方で。
それは、地域に密着して働くという意味を
全国にいる約18万人のヤマトグループ全社員に今も伝えています。
震災による被害は甚大で、復興にはまだまだ長い時間がかかります。
全国の社員一人ひとりがそれぞれの地域を見つめ、できることを探しながら、
自分たちの仕事を続けていきます。

助成先31件の具体的な復興再生事業とそこに至るプロセスの詳細は、
ヤマトホールディングスのホームページでお伝えしてきた月刊レポートで
ご確認いただけます。

ヤマトホールディングス
www.yamato-hd.co.jp